



2020年1月

第295号

The Service Club of The YMCA

東京八王子 ワイズメンズクラブ

会 長 並木 信一
副会長 花輪 宗命・久保田貞視
書 記 多河敏子・長谷川あや子
会 計 小口 多津子
直前会長 久保田貞視
担当主事 中里 敦
ブリテン 山本 英次・茂木 稔
大久保 重子・多河 敏子

国際会長 Jennifer Jones (オーストラリア) 主題 Building today for a better tomorrow スローガン On the MOVE!! 「さあ動こう!!」
アジア太平洋地域会長 田中博之 (東京多摩みなみ) 主題 Action 「アクション」
スローガン “With Pride and Pleasure” 「誇りと喜びを持って」
東日本区理事 山田敏明 (十勝) 主題: 勇気ある変革、愛ある行動!
副題: みんなで力を合わせて、1・2・3
あずさ部部長 赤羽美栄子 (松本) 主題: あなたの入会時の“ときめき”と多くの経験
をワイズのために!
クラブ会長 並木信一 主題: 誰かに、何かに、必要とされたい!

1月例会プログラム

【新春記念例会】

日時: 2020年1月25日(土)18:00~21:00

会場: 八王子市北野事務所 2階大会議室

(担当: B班・久保田・並木・花輪・望月・福田)

受付: 福田

司会: 久保田メン

開会点鐘	並木会長
ワイズソング	全 員
ワイズの信条	全 員
ゲスト・ビジターの紹介	久保田
聖句・食前の感謝	並木会長
会食	
卓話「人生の飛び石」	卓話者: 安武 豊氏
東京 YMCA 報告	担当主事 中里
報告・連絡事項	並木会長
ハッピーバースデー	並木会長
スマイル	花 輪
閉会点鐘	並木会長

巻頭言

30周年を迎えたクラブ (初夢)

会長 並木 信一

(5年前、90名に及ぶ出席のお申し込みをいただき、設立25周年のお祝いの会を企画し、ワイズメンズクラブに集う方々の温かさ、求心力の強さを思わせられた、東京八王子ワイズメンズクラブ。感謝の思いと共に、この求心力の強さを遠心的なエネルギーに結びつけることができなければ、やがては消滅に向かうのではないかと、との危機感も併せもった八王子クラブは、この危機感をバネに5年後のクラブの在り様を模索し始めました。)

2025年4月、昨秋、設立30周年の記念式を催した、八王子クラブは、新しい歩みをはじめていました。

先月の例会ポイント (12月)

		BF ポイント	
在籍	16名	切手 (国内・海外)	0g
メン	12名	累計	520g
メイキャップ	0名	現金	0円
出席率	75%	累計	0円
メネット	2名	スマイル	15,000円
ゲスト	3名	累計	52,923円
ビジター	7名	オークション	0円
ひつじぐも	4名	累計	0円

今月の聖句 (2020年1月)

来て、主の業を仰ぎ見よ。 主は驚くべきことをこの地に行われる。
地の果てまで、戦いをやめさせ、 弓を砕き、槍を折り、戦車を焼き払われる。

(旧約聖書・詩編46:9~10)

クラブメンバーは26名となり、5年前に78歳であったメンバーの平均年齢は67歳と少し若返りました。この5年間に中大YMCAひつじくもOBが5名、YMCAリーダーOBが5名、他、会員の紹介による3名の計13名が新たに会員となった結果です。

大学が多く、流動人口とはいえユース世代が多く生活する地域特性にあらためて着目し、本来の使命に目覚めた東京YMCAは、八王子市内に活動拠点を設け、ユース自身による新しい地域形成を促し、それを可能とする場を提供するようになっています。

八王子クラブメンバーは、会長、書記、会計の他に、

②クドレイジング等を主として担う、

②地域プログラム・ユース支援担当チーム(東京YMCAや中大ひつじくも、課題を共有する諸団体との協力・協働を担う)

③国際協力チーム(IBCを中心とする交際交流、国際的人道問題に関する啓発等を担う)の3チームに分かれ、其々、創造的に活動を担っています。

地域活動の中心は、市内某所のキリスト教会より無償で提供された施設を用い、月2回開催する「子ども食堂」です。食材などは、主として、趣旨に賛同する地域の方々の好意により、活動の中心は、ひつじくも会員及びYMCAユースボランティア、ワイズメンバーは、主にロジスティックを担っています。

27回を数えたチャリティコンサートは、新たに支援対象を定め、クラブの主要な活動として継続されており、市民から、賛同を得ています。

.....

今日は「子ども食堂」の開催日、会場となる食堂には、子どもの歓声が響き、忙しく立ち働くユースボランティア、ワイズメンの姿がありました・・・。

(いつものように、右足フクラハギが強烈につり、痛みで目覚めたら、ここは元日のYMCA東山荘1号館のベッドの中でした)

めでたい 初夢 めでたいナ!

絹の道老人ホームの活動を止めることに

茂木 洋子

絹の道ボランティア活動の始まりは、山本メンが紹介してくださったからと聞きました。

20数年もの活動となりました。最初は滝先生のフラワー教室があり、橋本メネットの指導と続き、いつの間にか私が引き継いでいました。

最初の頃、利用者の皆さん達も元気な人が多く会話も進

み賑やかでした。神代植物園のバラのお花見、町田の梅園にも行き、私達も付き添いとして同行、会話も弾み楽しい時間を共有しました。

作品作りでは、家で使わなくなった布を提供してもらったり、バザーで使えそうだからと用意して下さったり、100円ショップの利用も多くありました。他にもそれぞれが各家庭で飲んだり食べ終わった容器を持ち寄り作った作品も多くあります。

何を作るか考えるのが大変でしたが、何を作るにも器用な山中さんを頼りにボランティア精神に富んだ方々に支えられ楽しみながら続けることが出来ました。

活動の前に我が家で試作品をどう作るか話し合いをして作り方確認し合い見本を作りました。

利用者の皆さんも体の不自由な方が多くなってきたように見受けられます。「眼が良く見えない」「手が不自由」「気力が落ちてきている」等でお手伝いすることが多くなっていました。針は使えず、ボンドを使つての作業は限られます。男性の方は「こんな細かいことは初めてだよ」と言いながら作っていました。出来上がると「家に飾った」とか「奥さんにお土産ができた」と喜んで下さり、こちらも嬉しくなります。

作品づくりに参加しない人は他の活動をしたり、リハビリに行く人と分れます。お手伝いする側も「腰が痛い」「足も調子が悪くなった」「物がはっきり見えなくなった」等と故障者も出てきました。

施設に行くには車が必要です。皆さんも高齢化してきました。出来る時のお手伝いで良いので続けて欲しいとも言っていたのですが・・・お手伝いの皆さんとも話し合いました。今が止め時となりました。

並木会長に報告したら「始めがあれば終わりが有りますから」と言っていたので気持ちが楽になりました。常にお手伝い下さった皆様方を紹介します。

赤羽、石井、色川、下重、調、山口、山中、久保田メネット、多河丸の方々です。

気持ち良くお手伝い下さった皆様に感謝申し上げます。

長い間本当に有り難うございました。

クリスマス例会のこと

小口多津子

八王子クラブ恒例のクリスマス会は、12月21日(土)にありました。冬空に映える奇妙な形の建物、大学セミナーハウス(八王子)で、3年に一度回って来るA班の担当でした。



例会の第一部では、並木信一会長の新約聖書ヤコブ書3章から平和であるということというメッセージ「橋を架ける」、続けて全員で「平和を求める祈り」を唱和しました。この平和を求める祈りこそが、クリスマスに相応しいものでした。2部の祝会は、中里担当主事の調子の良い司会で始まり、ピアノ永町さん、マイクを握った並木さん、メネット雍子さんがその中心になってキャンプソングや懐かしい歌を皆で大合唱でした。

いつも音楽が中心の祝会ですが、永町さんは自由にピアノを弾かれるその曲選びが、実に私達世代にぴったりの往年の名曲ばかり、なんとも心地良く響き、一瞬で昔に戻り涙が出そうでした。



さらに、今年のもう一つのメインは、中央大学学Yひつじぐもの水口愛美さん、水野谷里美さんのマンドリン演奏でした。彼女たちは学Yひつじぐもとは別に所属している、マンドリンクラブでの成果を見事な合奏で披露されました。曲目の最後を飾ったのは、ブッチーニの名曲トウランドットから「誰も寝てはならぬ」でした。隣の席の岡垣さんが小さなハミングで体を揺らしていました。祝会中に集められたスマイル15,000円は、いつもの寄付先「多摩いのちの電話」へ。

この日は、あずさ部部長のクラブ訪問日でしたので、遠く松本クラブから赤羽美栄子部長と金井宏素あずさ部書記が

出席下さいました。赤羽さんは八王子クラブが10月12日に行われるはずだった、台風19号でやむなく中止となった25周年記念会の事に触れて、あの時、4日前に中止を決断した苦渋の選択を、私達の気持ちを汲んで代弁して下さいました。今、思うとあの選択は、私達が25周年をクラブ一丸となった中の一つの思い出としてずっと残ることでしよう。25周年記念誌が茂木さんのご尽力で立派なものが出来ました。後日、記念誌を受け取られたお一人、西クラブの吉田明弘さんは、記念誌の感想をこう述べられたのでした。「なかなか良い記念誌をつくられましたね。事業別にまとめられたので、読みやすい、組織や担当がはっきりしている東京八王子ならではです」。

12月クリスマス例会は、毎年、各班の計画で一年に一度の、頬のゆるむ一番楽しい企画です。今年は、メンバー13名、メネット2名、ピジターは松本クラブの赤羽さん、金井さん、東京多摩みなみクラブから田中博之ご夫妻、東京西クラブの神谷幸男ご夫妻、篠原文恵会長、ゲストはピアノ永町匡世さん、酢屋善元さん、岡垣修武さん、そしてひつじぐもは、川村さん、水口さん、水野谷さんと原部さん。総勢29名でした。

西東京センターファミリークリスマス

長谷川あや子

12月8日、西東京センターファミリークリスマスが東京YMCA 医療福祉専門学校で行われました。

第一部クリスマス礼拝では国立教会宮寄薫牧師による「みんな、ひとつに」と題したメッセージを頂きました。第二部はクリスマスお楽しみ会。リーダーによる人形劇やゲーム大会を楽しんだ後、音訳ボランティア「シジュウカラ」の皆さんによるクリスマスの絵本の朗読がありました。

私は1997年にワイズに入会してからほぼ毎年、西東京センターのクリスマスに参加していますが、最初の数年は手作りクリスマスといった感じで、八王子ワイズは「おにぎり」を頼まれ、メネットさんたちが大きなおにぎりを作って下さいました。その後、規模も大きくなって国立商協ビルさくらホールで行ったこともありました。幼児野外活動グループ「にこにこ」のクリスマスソングや武蔵野多摩クラブのトーンチャイム演奏、お楽しみ抽選会もありました。八王子ワイズの茂木さんによる手品のあった年もありましたね。会場いっぱいの子供たちが歓声をあげた光景が目には浮かびます。

私の心に残る思い出は、今は亡き飯忍さんの絵本の語りです。内容はもう忘れましたがすごくお上手で驚愕したことを憶えています。クリスマスメッセージで忘れられないのは「ジャイアンはどうしてジャイアンっていうのかな?」「強いから。大きいから。」「いや、ジャイアンはジャイ子の兄(あんちゃん)だ

からジャイアンって言うんだよ。ジャイアンはジャイ子に繋がっている。みんなもお父さんやお母さん、お友達に繋がっているね。でも、もっともっと強く繋がっているのはイエスマなんだ…」私たちは必ず誰かに繋がっている、そして一番強く繋がっているのはイエスマ、という牧師先生のお話が今も私の心にしっかりと根付き忘れられないのです。サア、来年はどんなファミリークリスマスになるでしょう！



東京西センターのある復活した国立駅の三角屋根



松本市でのあずさ部会



八王子クラブから松本部会への出席者

「高尾わくわくたより」令和2年1月号

館長：古市 健

新年あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願いたします。

冬も本番を迎えておりますが、今年の冬は今のところ寒さも厳しくなく、日によっては日中 10 度を大きく上回るような日もあり、いささか不気味に思うほど暖かな冬となっています。しかしながら、当館をご利用になるお客様にとっては悪いことではなく、12 月にも関わらず、野外炊爨場では野外料理を楽しむお客様も例年よりは多く見られる月となりました。

当館は閑散期に突入しているものの、それでも例年通りの 2,000 名近くのお客様にご宿泊いただきました。12 月は学校関係の部活動の宿泊合宿が多く、バスケットボール、バドミントン、バレーボール、サッカーなど幅広いスポーツを行う学生たちで賑わっておりました。また、この季節はバスケットボールなどの室内スポーツの大会が、都内の各所で多く開催されている様子で、首都圏の学校に限らず大阪方面からこの大会に参加するために学校が利用するケースも少なくありませんでした。

また、冬休みシーズンに入ってから、例年通り多くのご家族にもご利用いただき、活動支援プログラムをお楽しみいただきながら、また、お母様は日ごろの家事の忙しさを一時だけでも忘れていただき、年末をゆったりと当館でお過ごしいただくことができましたようです。

今年度も残すところあとわずかとなり、4 月になれば当館は 16 年目を迎えます。2005 年の開業以来、本当に多くのお客様をお迎えし、また多くのお客様にお支えいただきながらこれまでやって参りました。

新しいこの 2020 年も、引き続き多くのお客様の笑顔に会えるよう、スタッフ一同、一生懸命努力を重ねる所存で



わくわくヴィレッジのザリガニ

西東京センター便り

西東京センター 館長 中里 敦

新しい年を迎えこの一年も神様の御心にかなった活動が行えるセンターでありたいと願います。

年末のスキーキャンプも無事に終え、2月、3月のスキーキャンプ等のプログラムに向けての準備を進めています。今年はYMCAがキャンプを始めて100周年になります。キャンプが終わるたびに思うことは、今回のキャンプは子どもたちにとってどうだったのだろうか？ということです。そして、キャンプ100周年のこの年にYMCAのキャンプの価値を見直し、社会にアピールする良いチャンスだとも感じます。

現在の教育は、詰め込み型の覚える教育が中心でできていますが、私の子どもが小学生の頃にゆとり教育が始まり、ゆとり教育は覚える学習ではなく、自分で考える学習だと聞いたことがあります。YMCAはまさにこのゆとり教育に近いものではないかと感じます。今の学校教育でもアクティブラーニングが注目され、取り入れられています。体験学習やグループワークなどYMCAがキャンプで長年続けてきている手法です。加えて気を付けていることは、スモールステップでの成功体験です。目標を高く掲げるのではなく小さな成功体験を繰り返すことが自信につながり、ポジティブな気持ちを育んでいきます。もちろん体験学習にはうまくいかない失敗体験も必要ですが、ポジティブな気持ちがあつてこそ「次こそは！」と前向きに考え、行動に移していけるのではないのでしょうか。

教え込まれるのではなく、自ら考え主体的に生きることができると求められる社会において、YMCAが長年培ってきたキャンプを多くの人に知ってもらいたいと願います。

中大ひつじぐも便り

中大ひつじぐも1年:渡辺伊純

この度八王子メンズワイズクラブの係を引き継がせていただきました中央大学国際ボランティアサークルひつじぐもの渡辺伊純です。商学部会計学科に所属している1年生です。

5月の新歓BBQでワイズメンズクラブの活動に参加させていただきました。高尾の森ワクワクビレッジでの草抜きが私にとって初めてのボランティア活動でした。その時私はサークルに入ったばかりで、知り合いも少なかったため初めは少し戸惑うこともありましたが、しかし八王子ワイズメンズクラブの方々が一緒に活動をしていく中で大学生活のアドバイスを教えてくださるなどし、有意義な時間を過ごすことができました。

私はボランティア活動をする中で多様な人と接することができ、多様な価値観にふれられるという大きな発見をしました。

また、八王子ワイズメンズクラブやひつじぐものOBの方々からひつじぐもの歴史についてのお話を伺った時はその歴史の長さによって圧倒されました。私は長い歴史をもつ、ひつじぐものに所属していることを誇りに思うと同時に、これからは私たち学生らがその歴史を大切に引き継いでいこうという責任感を感じました。

私は昨年あまり八王子ワイズメンズクラブの活動に参加することができなかったため、今年は係に自ら進んで担当させていただきました。今年度はよりボランティア活動に参加しボランティア経験を積むと共に、八王子ワイズメンズクラブやひつじぐものOBの方々との交流を通して大学の講義だけでは知ることができない新たな刺激や価値観にふれ視野を広げていきたいと思っています。

至らない点もあると思いますが、今後ひつじぐもの八王子ワイズメンズクラブの係として責任をもって務めさせていただきますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

今月の聖句によせて(2020年1月)

沢田美喜は、三菱財閥の創業者である、岩崎弥太郎の孫娘として生まれましたが、戦後、進駐軍と日本人女性との間に生まれた混血児の孤児院であるエリザササンダースホームを創立し、差別、偏見、貧困の中にあつた子ども達を引き取り育てることに後半生を捧げました。沢田美喜が引き取り育てた子どもは、2,000人に及んでいます。「どんな子どもでも、人間として生を受けた以上、立派に育てなければなりません」というのが、沢田美喜の働きを貫く信念でした。そして、沢田美喜は、毎朝の祈りの中で、「地の果てまで、戦いを止めさせ給え」との詩編の聖句を、どんなに心の底から繰り返すかわかりませんが、と述べています。また、「地上に戦いをなくすことは、どんなにかすべての人類の望んでいるところであります。多くの天災は人の手をもって防ぐことはできません。けれども、戦争だけは人の力である程度は止めることができるように思われます。戦争によって道徳も思想も低下し、不幸な孤児をつくり、何一つ戦争によってよかったと思うものは生まれてきません。よかったと思うものは生まれてこないのを見ても、私は、毎日この祈りを心からくりかえしております」と述べています。先に来日して、私たちに深い感銘を与えるスピーチを残した、フランシスコ・ローマ教皇は、長崎の地で、「今日の世界では、何百万という子どもや家族が、人間以下の生活を強いられています。しかし、武器の製造、改良、維持、商いに財が費やされ、(財)が築かれ、日ごとに武器はいっそう破壊的になっています。これらは、途方もないテロ行為です」と、スピーチしました。さらに広島で、「戦争のための最新鋭で強力な兵器を製造しながら、平和について話すことなどどうしてできるのでしょうか。武器を手にしたまま愛することはできません」と述べました。

新しい年の初めにも、イラン、アメリカとの間に全面戦争を誘発しかねない事件がおこりました。人間に限りない不幸をもたらす戦争をどうしたら放棄することができるのでしょうか。今年も、この問いからはじまりました。 並木信一

報 告

2019年12月度 第2例会 報告

- ▼日 時:2019年12月28日(土)18:00~20:00
- ▼会 場:北野事務所小会議室(担当A班)
- ▼出席者:A. 小口・長谷川 B. 花輪・久保田・並木・福田・望月 C. 茂木・山本・多河

I. 報告・確認

12月クリスマス例会(第1例会)担当A班) 日時:12月21日(土)17時20分~20時30分

会場:大学セミナーハウス 1部 さくら館 2部 本館食堂
出席者:**A班** 小口、長谷川、中里、古市、**B班** 久保田、久保田メネ、花輪、福田、望月、並木、並木メネ **C班** 大久保、茂木、山本 **ビジター** 赤羽、金井(松本)、神谷、神谷メネ 篠原(東京西)、田中、田中メネ(東京多摩みなみ)**ゲスト** 永町、酢屋、岡垣、中大ひつじぐも、川村、水口、水野谷、原部、以上28名

2. 1月第1例会予定の確認(担当B班) 日時:1月25日(土)18時~20時 北野事務所 卓話「人生の飛び石」
卓話者 安武 豊氏

スマイルー台風被災者支援のために

3. 西東京YMCAユースリーダー感謝会=武蔵野・多摩クラブ&八王子クラブ合同

日時:2月12日(水)19時~ 会場:西東京YMCA

4. 2月第1例会予定確認(担当C班) 日時:2月22日(土)18時~20時 北野事務所

卓話者 太田 勝人氏(東京町田スマイルングクラブ会員)

5. 街頭募金 3月7日(土)八王子駅北口前で行う
道路使用許可手続きは並木が担当。

6. 第22回チャリティコンサートの予定確認 3月14日(土)北野市民ホール *実行委員長 久保田メン *チラシ・ポスター・チケット配布 *整理券1,000円

7. 3月第2例会予定確認(担当A班)3月28日(土)18:00~20:00 北野事務所 意見交換—「東京八王子ワイズメンズクラブの近未来構想」

8. 4月例会 *第1例会 4月11日(土) *第2例会 4月25日(土) (担当B班)

9. 5月第1例会 5月23日(土)担当C班 卓話者 米長 晴信氏(甲府21会員)—長谷川メン推薦

B. YMCA・他クラブ・部・区等

1. 在京ワイズ新年会:1月11日(土)14:00~18:30 :東京Y体育・保育学校:会費5,000円
参加予定者4名— 長谷川、久保田、茂木、並木

2. 東京・むかで・たんぼぼ3クラブ合同例会:1月14日(火)18:30~東陽町Y 花輪メン参加予定

3. 「東日本区 Change! 2022」シンポジウム: 日時:2月1日(土)13:00~16:30 :東京Y体育・保育学校:会費2,000円:参加予定者5名—久保田、並木、花輪、長谷川、小口

4. 東京多摩みなみクラブ チャリティーバザー
日時:2月11日(火)12:00~16:00P.M. クレバリーホーム立川店(モルレル立飛駅)

5. 高雄港クラブ創立20周年慶祝大会:2020年3月7日(土)久保田さんが訪問予定。メンバーでカードに寄せ書きをし、久保田メンがお土産とともに持参する。

C. 協議

1. 次年度(2020~2021年度)クラブ役員の選出
2. 次々期(2021~2022年度)あずさ部長の推薦(当クラブ)

卓話者: 安武 豊氏の略歴

- 1938年 長崎県北松浦郡平戸(現・平戸市)生まれ
- 1957 福岡県立小倉高校卒業
- 1962 一橋大学(社会学部)卒業、日魯漁業株入社
- 1972 12月シアトル赴任
- 1977 2月帰国、共産圏貿易(ソ連、中国)担当
- 1983 シンガポール駐在
- 1985 カイロ(エジプト)経由で帰国
- 1993 バンコク駐在
(俳句との出会いは赴任の1ヶ月前)
- 1994 帰国、ニチロロイヤル社に移籍
同年 俳句同人「春光」に入会し現在に至る
- 1999 定年退職、8月末より四国八十八か所歩き遍路
- 2001 南無の会・坐禅会(中野東禅先生の下で)
*中野先生の案内により、2004年莫高窟と玄奘三蔵法師の足跡を訪ね(西安から新疆ウイグル自治区ウルムチ) / 2007年タクラマカン砂漠縦断(汽車でウルムチからカシュガル) / 2009年ネパール・インド七大仏跡巡拝)
- 2003 熊野古道歩き三山巡拝
- 2008 奈良吉野の金峯山寺・大峰山入峯修行
- 2010 高尾山健康登山2100回満行
- 2012 「おくのほそ道」の旅終了
- 2014 8月「日野木鶏クラブ」入会、12月「詩吟サークルみなみ野」入会

1月のお誕生日
並木 信一さん 1月 20日